

## 第 125 回 地区内中小企業景気動向調査結果

(令和2年1~3月期実績・令和2年4~6月期見通し)

1. 調査時点 令和2年3月2日~3月6日
2. 調査対象企業数 171社中回答 171社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300人以上	1	1	100.0
〃	従業員 300人以下	34	34	100.0
建設業	〃	43	43	100.0
卸売業	従業員 50人以下	8	8	100.0
小売業	〃	55	55	100.0
サービス業	〃	30	30	100.0
合計		171	171	100.0

### 3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

### 4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

### 5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課（TEL. 0146-22-4100、内線 615）  
〒057-0013 浦河郡浦河町大通 2 丁目 31 番地 2

## 全業種総合 171 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

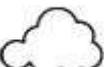
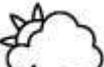
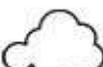
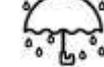
### □ 概 況

今期(令和2年1~3月期)の業況判断D.I.は△36.6と、前期(△4.7、令和1年10~12月期)比31.9ポイント下降した。また、前年(△19.2)比では17.4ポイントの悪化となった。前期(令和1年10~12月期)調査時点での今期(令和2年1~3月期)見通し(△27.9)を8.7ポイント下回る水準となった。業種別の業況判断D.I.は、製造業△32.3(前期5.5)、建設業△11.6(同9.3)、卸売業△62.5(同25.0)、小売業△47.3(同△12.7)、サービス業△51.7(同△30.1)となった。

売上額判断D.I.は△37.1と前期(7.6)比44.7ポイント下降、収益判断D.I.は△33.9と前期(△1.7)比32.2ポイント下降した。

来期(令和2年4~6月期)の予想業況判断D.I.は△22.8と、今期実績比13.8ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造業△31.5(今期△32.3)、建設業14.0(同△11.6)、卸売業△25.0(同△62.5)、小売業△40.0(同△47.3)、サービス業△33.3(同△51.7)と来期を見通している。

### 【業種別天気図】

時期 業種	地 区 内				北 海 道	全 国
	2019年 7月~9月	2019年 10月~12月	2020年 1月~3月	2020年 4月~6月 見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						
<p>好調 ←        → 低調</p> <p>この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。</p>						

## □ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-12.7	-4.7	-36.6	-22.8
売上額	-2.4	7.6	-37.1	-7.6
収 益	-10.5	-1.7	-33.9	-7.6

全業種総合の今期の業況判断 D. I. は $\Delta 36.6$ で、前期比31.9ポイント下降した。地区別のD. I. は、高い順にえりもが最も高く、広尾、三石、静内、浦河と続き、様似が最も低い水準となった。前年 ( $\Delta 19.2$ ) 比では17.4ポイント下降した。売上額判断 D. I. は $\Delta 37.1$ で前期比44.7ポイント下降、収益判断 D. I. は $\Delta 33.9$ で前期比32.2ポイント下降した。



## □ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	7.0	17.5	-8.2	2.3
仕入価格	33.8	37.8	14.0	17.0

販売価格判断 D. I. は $\Delta 8.2$ で、前期比25.7ポイント下降、前年(2.9)比11.1ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は14.0で、前期比23.8ポイント下降、前年(20.4)比6.4ポイント下降した。前期比の販売価格を業種別にみると、全業種で下降、同仕入価格も全業種で下降している。



## □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-4.6	1.7	-3.6	-3.0
人手状況	-26.7	-27.3	-15.8	-18.1

残業時間判断 D. I. は $\Delta 3.6$ と、前期比5.3ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 15.8$ と、前期比11.5ポイント上昇し、人手不足感が大幅に弱まった。

## □ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 5.8$ で、前期( $\Delta 6.9$ )比1.1ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は8.8で、前期(14.0)比5.2ポイント下降した。設備投資は、前期24社に対し、15社の実施となった。来期の設備投資は、11社の予定となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が53.3%で最も多く、次に「同業者競争」が30.3%、「人手不足」23.6%、「利幅の縮小」16.4%、「人件費増加」10.3%、「地場産業衰退」9.7%、「天候不順」3.6%、「諸経費増加」3.0%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が76.9%で最も多く、次に「人材確保」24.4%、「教育訓練強化」3.8%、「不動産有効活用」・「パート化」1.3%となっている。



## □ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 22.8$ と、今期比13.8ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 7.6$ と、今期比29.5ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 7.6$ と、今期比26.3ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は2.3と、今期比10.5ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は17.0と、今期比3.0ポイントの上昇を見通している。

## 製造業 35 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

### □ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-22.3	5.5	-32.3	-31.5
売上額	8.4	45.6	-37.1	5.8
収 益	-16.7	13.9	-17.1	-2.9

今期の業況判断 D. I. は $\Delta 32.3$  で前期比 37.8 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、えりもが最も高く、浦河、静内・広尾が同率、次に類似が続き、三石が最も低い水準となった。前年( $\Delta 33.4$ )比では 1.1 ポイント上昇した。売上額判断 D. I. は $\Delta 37.1$  で前期比 82.7 ポイント下降、収益判断 D. I. は $\Delta 17.1$  で前期比 31.0 ポイント下降した。



### □ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	16.6	33.3	-8.6	-2.8
仕入価格	47.2	50.0	-5.7	-2.9

販売価格判断 D. I. は $\Delta 8.6$  で、前期比 41.9 ポイント下降、前年(16.6)比 25.2 ポイントの下降となった。仕入価格判断 D. I. は $\Delta 5.7$  で、前期比 55.7 ポイント下降、前年(36.1)比 41.8 ポイントの下降となった。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-5.5	13.9	-3.0	0.0
人手状況	-25.0	-41.7	-22.9	-28.5

残業時間判断 D. I. は $\Delta 3.0$  で、前期比 16.9 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 22.9$  で前期比 18.8 ポイント上昇し、人手不足感が大幅に弱まった。

## □ 設備投資の動き

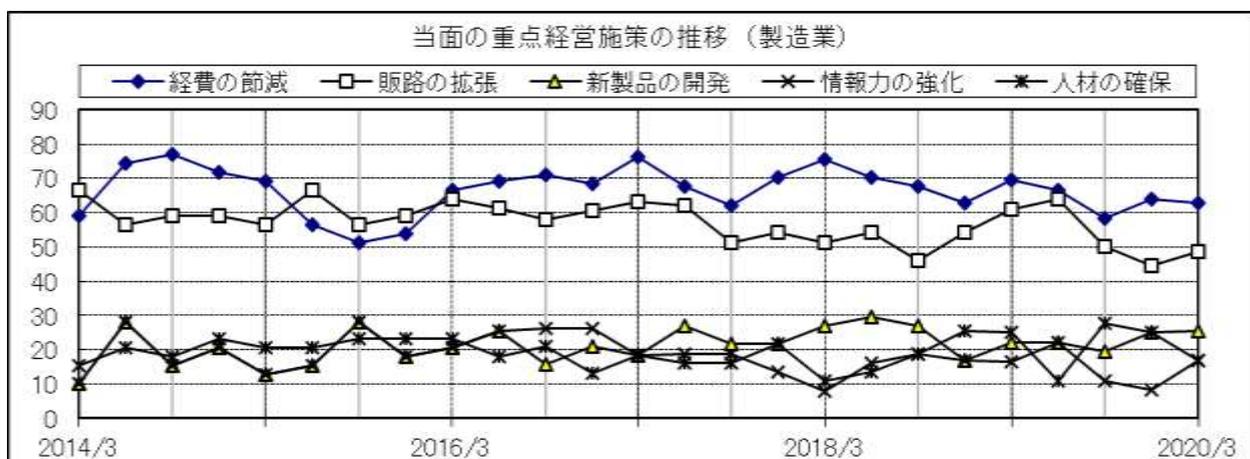
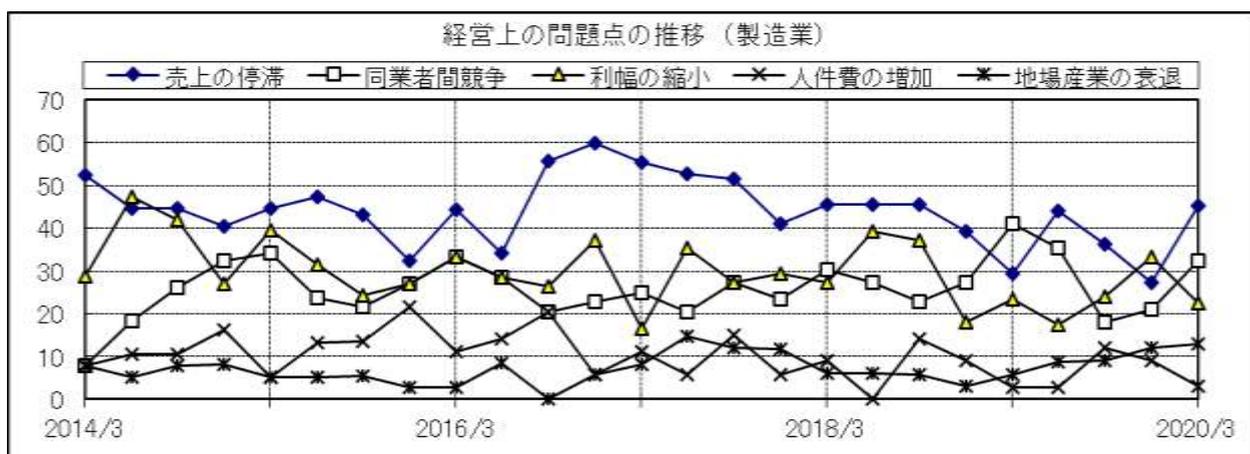
設備投資の充足感を示すD. I. は△8.5で、前期(△8.3)比0.2ポイントの下降となった。

設備投資実施企業割合は14.3で、前期(19.4)比5.1ポイント下降した。設備投資は、前期7社に対し、5社の実施となった。来期の設備投資は、5社の予定となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が45.2%と最も多く、次に「人手不足」35.5%、「同業者競合」・「原材料高」が32.3%、「利幅縮小」22.6%、「生産能力不足」・「地場産業衰退」が12.9%、「大手企業競合」・「値下げ要請」が9.7%、「値上げ要請」・「工場機械老朽化」が6.5%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が62.9%と最も多く、次に「販路拡大」48.6%、「新製品開発」25.7%、「情報力強化」・「人材確保」が17.1%、「不採算部門縮小」8.6%、「機械化促進」5.7%となっている。



## □ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△31.5と、今期比0.8ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は5.8と、今期比42.9ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は△2.9と、今期比14.2ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は△2.8と、今期比5.8ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は△2.9と、今期比2.8ポイントの上昇を見通している。